■開催にあたって

いわき市内では、多数の遺跡が確認・調査され、いわき総合図書館でも調査報告書をはじめとした関連図書を所蔵しています。
「図書探訪　いわきの遺跡」は、それらの遺跡を紹介するとともに、文化財への関心を深めていただくことを目的に開催いたします。

今回「平城跡―旧外堀跡編―」を行うのは、現在、ラトブが建つ敷地が、江戸時代の平城の武家屋敷と旧外堀にあたり、その建設にあたって平成 18 年 (2006) に立会い調査が実施され、同 20 年に調査報告書が刊行されたことからです。

かつて平城は、磐城平藩の城郭として慶長 7 年（1602）に入封した鳥居氏により、慶長 8 年から同 19 年（1615）の 12 年間の歳月をかけ築城されました。以後、約 250 年余の間、内藤氏、井上氏、安藤氏の居城を経て明治維新を迎えます。

明治 4 年（1871）の戊辰の役を最後に平城は城の役割を終え、城内の櫓は壊され門などは払い下げられ、その姿は消えてしまいます。平成の今、石垣などの遺構や移築されて現存する門などから、僅かに当時の様子を垣間見るだけになっています。

水を湛えていた外堀も次第に隣接していた商家の様々な廃棄場になっていきました。そして、明治 30 年 (1897)、現在のＪＲ常磐線開通に伴い埋め立てられます。

本展では、江戸時代の平城下とラトブの立つ南西にあった「不明門」周辺の外堀から出土した遺物を紹介します。

平城下を概観する最良の資料（絵図）として磐城平城史跡公園の会の協力により安藤氏時代に作られたいわき市指定文化財・歴史資料「磐城平城下絵図」の写真パネルを、また、あわせて、いわき総合図書館が所蔵している「岩城平城内外一覧図」を展示し、その様子を鳥瞰します。

そして、財団法人いわき市教育文化事業団の協力により展示された陶磁器・明治初期のランプ・ガラス製品・木製品から、いわきの幕末から明治 20 年代頃の生活文化に接していただき、明治の大変革期のいわきの人々の暮らしを想像していただければと思います。

いわき総合図書館
館長　**新妻　秀次**

■絵図から見た平城

江戸時代の絵図の中で、城が描かれている「城絵図」は、幕命により各藩が作製し幕府に提出したものです。いわき市内に現存する「城絵図」と内藤家の藩主文書を有す明治大学にある「城絵図」は、藩が国元の控えに保管してきたものです。その中で、歴史の変遷が特に読み取れる３点が、いわき市の市指定文化財（歴史資料）になっています。

本展では、平城跡―旧外堀跡―から出土した遺物の時期（幕末から明治20年代）に近い絵図である磐城平城下絵図（有賀家所蔵）と岩城平城内外一覧図（いわき総合図書館蔵・山崎家所蔵の「平城下古絵図」を縮図したもの）と平城下復元図から江戸時代末の磐城平の城下（田町周辺）に近づいて見ます。

正保平城下絵図　平成２年３月指定　加藤家所蔵

製作時期　正保年間（1644～1647）頃　内藤氏時代
内　容　本丸・二ノ丸・三ノ丸、侍町や小路割、町家などの間数、堀の深さや広さ、朱書きの本道と脇道の区別など全国統一された規格で描かれ、現在の平一町目から五町目までの商人町がこの時すでに完成していたことがわかります。幕府が正保元年に国絵図とともに製作を命じた城絵図と推定されます
大きさ　縦222cm 横313cm

平城下古絵図　昭和43年12月指定　山崎家所蔵

製作時期　享保20年（1735）頃　内藤氏時代
内　容　城内の建造物・石垣・内堀などは一切描かれていません。わずかに城郭に連なる城門や櫓のみが描かれています。侍屋敷・寺町・足軽町・職人町・商人町など城下の町割が克明に記載され、人名も書き込まれています
大きさ　縦3.85m 横4.91m

磐城平城下絵図　平成10年４月指定　有賀家所蔵

製作時期　寛政元年（1789）　安藤氏時代
内　容　城内の櫓・門・蔵などの建物や本丸内の六棟ほどの建物が細かく描かれています。城の周囲と西には侍屋敷、東に中間屋敷、南西部の大館は寺町。安藤家家臣の屋敷の区画には、役職にある家臣と百石以上の国詰めの家臣の名前八〇名余りと、その屋敷が読み取れます
大きさ　縦84cm 横174.0cm

岩城平城内外一覧図　いわき総合図書館蔵

製作時期　昭和10年１月
内　容　山崎家所蔵の「平城下古絵図」を縮図したものです。
製図手・野木信吉
大きさ　縦80.60cm 横112.4cm

平城下復元図　いわき市教育委員会

内　容　平成の地図に平城下の城郭と町割りを重ねたものです。
城下古地図（山崎家所蔵）より作成し、城郭内施設は
複数の古地図より挿入しています。
大きさ　縦59.5cm 横84.0cm

■ 109 年ぶりの外堀の底

「年々夏より秋までは平士三人ニ御堀奉行仰付られ、日々ニ小舟を乗り廻し埋れるをさらい，藻草等まで取捨とらせ水色藍のことし」と藩の記録があるように、江戸時代、平城の堀は定期的に堀さらいが行われていました。
明治 4 年（1871）の廃藩置県以降、「平県」「磐前県」「福島県」と変化していく中で、利用目的を失った「平城」の「外堀」はしだいに「空堀」となり、廃棄場と化していきました。
そして、駅前再開発の建物「ラトブ」の建設に伴い、明治 30 年（1897）の埋め立てから、109 年後の平成 18 年（2006）に、外堀の底が姿を現したのです。

調査要項

(1) 遺跡の名前　平城跡（たいらじょうあと）
(2) 調査した所　福島県いわき市平字田町 50 番ほか
(3) 遺跡の地目　平市外地、現在のラトブ敷地
(4) どんな遺跡か　江戸時代の城跡
(5) 調査の理由　駅前再開発に伴う建設工事
(6) 調査した面積　約５，０００㎡
(7) 調査の期間　平成 18 年（2006）2 月 22 日から 3 月 30 日
(8) 調査の方法　立ち会い調査（遺物の採取）
(9) 調査した機関　いわき市教育委員会

調査の概要

この地点は、江戸時代の絵図などから平城の外堀跡および武家屋敷跡であることが知られていました。
今回、駅前再開発の建物建設に伴い、城の跡や遺物の有無等を調べる目的で立ち会い調査を実施しました。調査の範囲は、工事で掘削する範囲全域で、深さは遺物が明らかに出土しない地表から約 4 mの深さまでです。調査は、工事の掘削開始の段階から、掘削の完了するまで行われました。

調査の結果、現在の地表より約 1 mの深さから、堀の跡が絵図どおりの位置に確認されました。この堀の中からは、江戸時代の終わりから明治時代はじめにかけての様々な遺物がたくさん発見されました。なお、武家屋敷の跡については、残念ながら井戸跡らしきものが 1 つ見つかっただけで発見することができず、調査の精度などの課題を残しました。

発見された遺物は、陶磁器 2,267 点や木簡を含む木製品 281 点、金属製品・石製品・自然遺体など、合わせて 2,677 点にのぼります。なかでも、陶磁器や木簡、化粧容器・目薬の木箱蓋・箸・下駄などの木製品、貝ひしゃくなどは、全国から出土する各種遺物の年代の目安となるばかりでなく、個々の遺物を研究する上でも学術的に極めて価値の高いものばかりです。

■文献に記された平城

■『磐城枕友』　同書は、好間村の熊野神社の神官であった、吉田定顕（よしだ・ていけん）により宝暦 11 年（1761）に書かれました。時期は、安藤氏が磐城平に入封してから 5 年後、鳥居氏が築城してから 160 年後の頃です。安藤時代の平城下の様子を知ることのできる最良の文献です。

武家屋敷

「士家は外郭を囲繞して読誦の声美はしく撃剣駆馬の習ひ常に行路の人を畏敬せしむ南面に市井を開き」と記されています。
ここから、武士の家は城の周りを取り囲むように在り、論語などを唱える声が聞こえ、剣術・馬術に励む武士の姿に、町民たちが心から敬っていた様子が浮かぶようです。

武士の住居区域は、「諸士居処」（上位～中位の家臣「武家屋敷」）と「小吏居処」（下位の家臣）と「軽卒居処」（下位の家臣）の３つに分けられていて、調査した田町は中位の家臣の武家屋敷跡だったことがわかります。

■諸士居処（上位～中位の家臣「武家屋敷」）の場所

○六間門（城西）○揚 土（城より申）○八幡小路（城西）○道城小路（戌）
○曲 松（申）○杉 平（亥）○桜 町（亥）○才槌小路（未申）
○古鍛冶町（未申）**●田 町（城南）**○柳 町（丑寅）○梅香町（丑）
○四軒町（城北）○白銀町（辰）○番匠町（城東）○鷹匠町（寅）

郭　門

郭門の数は全部で 17 門があり、出入りと位置と役割が想像できます。調査区域に隣接していた「不明門」は、当時は「不開門（あかず）」と呼ばれていたようです。

■本丸より城西へ出る追手の順道なり　　八幡小路へ出る
○中 門（南向）○大手門（北向）○黒 門（西向）○六間門（南向）
■本丸より城東へ出る搦手順道なり　　白銀町へ出る
○櫛形門（西向）○埋 門（東向）○中仕切門（南向）○裏 門（西門）○鷹 門（東門）
■○城坂門（辰巳向）　追手より田町へ出る
○田町門（北向）　田町より才槌小路へ出る
○才槌門（南向）　才槌小路より古鍛冶町へ出る
○不開門（南向）　田町より本町三丁目へ出る
○杉平門（西向）　三丸外張門、玉門西道へ別れ出る
○三丸外張門（西向）杉平門より桜町へ出る
○玉 門（南向）　杉平より六間門前へ出る
○長橋口門（未申向）平城西の出口長橋町の端

平城と磐城平藩

年号	西暦	平城・磐城平藩と藩主　関連事項
慶長5年	1600	**9月**　関ヶ原の戦い。岩城氏（岩城貞隆）、佐竹氏（佐竹義宣・常陸国）らは徳川方に組せず
慶長6年	1601	**5月** 岩城貞隆、除封され江戸で謹慎。岩城領12万石没収される
慶長7年	1602	**12月** 譜代大名・鳥居忠政、下総国矢作（千葉県香取市）4万石から磐城平に10万石で入封する。
慶長8年	1603	鳥居忠政、 前領主・岩城氏の居城大館城に入る 。赤目崎物見ヶ岡に平城築城を開始する
慶長10年	1605	鳥居忠政、2万石加増され12万石となる
慶長19年	1614	鳥居忠政、磐城平城完成する
元和8年	1622	**9月** 鳥居忠政、出羽国山形（山形県山形市）へ20万石で転封する
元和8年	1622	譜代大名・内藤政長、上総国佐貫（千葉県富津市）4万5千石から磐城平に７万石で入封 。長子忠興にも２万石が与えられる 。以後６代125年間在城
寛永11年	1634	**10月** ２代内藤忠興、藩主になる。弟政晴に２万石を与え泉藩を興す。小川江を開削し新田開発に努め、寛永の寅の検地と称された総検地を実施する
		（内藤忠興、和算家・今村知商を家臣にし郡奉行にする）
寛文10年	1670	**12月** ３代内藤義概、藩主になる。前藩主忠興は、三男遠山政亮に新田１万石を分地し、これが湯長谷藩となる。
元文3年	1738	内藤政樹､磐城平藩領内で百姓一揆がおこる。一揆の参加者２万人（元文一揆）
		（内藤政樹、和算家・久留島義太と松永良弼を家臣にする）
延享4年	1747	**３月** ６代内藤政樹、日向国延岡（宮崎県延岡市）に７万石で転封する
延享4年	1747	譜代大名・井上正経、常陸国笠間（茨城県笠間市）より磐城平に６万石で入封する。城付２万３千石、伊達３万石、多賀７千石
宝暦6年	1756	井上正経、大坂城代として畿内に転封する
宝暦6年	1756	譜代大名・安藤信成、美濃国加納（岐阜県岐阜市）より、磐城平に５万石で入封する。以後、７代115年間存城
文久元年	1861	城付の磐城領２万６千石余、美濃領３万石余、三河領１万石余で合計６万７千石
弘化4年	1847	安藤信正、５代藩主となる
万延元年	1860	安藤信正、老中になる
文久2年	1862	**１月** 安藤信正、坂下門外で襲われ負傷する。老中を罷免され、２万石を減領される。隠居・永蟄居を命じられた
慶應3年	1867	大政奉還
慶応4年	1868	安藤信正が奥羽越列藩同盟に加盟したため、**戊辰戦争**では東軍として参戦。**7月** 平城落城
明治30年	1897	旧外堀、現JR常磐線の開通に伴う整備にて埋め立てられる
平成19年	2007	**10月** 駅前再開発ビル「ラトブ」オープン